

1. 科目名（単位数）	海外福祉事情特論（2単位）	池袋・名古屋	3. 科目番号 SSMP5319
2. 授業担当教員	田代 幹康		
4. 授業形態	講義・討論・発表		5. 開講学期 秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	<p>国際化時代のなかで、海外の社会福祉の変遷・政策をとりあげ、その内容・課題について国際的な視野から分析・考察する。福祉国家類型論にもとづき比較分析・考察し、海外の福祉事情について研究する。</p> <p>尚、講義は各学生が事前に担当国について調べ、レジメを作成し、発表する方法により進める。</p> <p>各回の学習の展開及び内容については、受講する学生の出身国の福祉について発表してもらう予定もあるのでテーマの国が若干変わる可能性がある。</p>		
8. 学習目標	<p>① 福祉に関する国際的視点と同時にその視点の相対化、客観化を通して各国の状況に対する新たな事実や知見を発見する。</p> <p>② 社会や文化、時代を超えた共通・固有の特性について学ぶ。</p> <p>③ 異なる国を比較しながら分析・研究するとき、妥当性・信頼性ある調査研究の方法論を探求する。</p> <p>④ 各国の社会問題等、を取り上げ、社会福祉的介入の方法を分析・比較する。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>「社会福祉政策や制度の特徴を比較・分析する」。</p> <p>※課題の比較・分析の枠組み：①各国の社会的背景 ②課題の内容 ③各国の相違点 ④比較・分析を通して学んだ点と自分自身の意見を記述する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>教科書は、教員が毎回の授業時に資料を配布する。</p> <p>以下のものを参考資料としてあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。</li> <li>・仲村優一、阿部志郎、一番ヶ瀬康子、『世界の社会福祉』旬報社。</li> <li>・イエスター・エスピニン=アンデルセン；岡沢憲美・宮本太郎監訳『福祉資本主義の三つの世界-比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房、2001年。</li> <li>・イエスター・エスピニン=アンデルセン；渡辺雅男・渡辺景子訳『ポスト工業経済の社会的基礎-市場・福祉国家・家族の政治経済学』桜井書店、2000年。</li> <li>・G・エスピアン・アンデルセン：渡辺雅夫・渡辺景子訳『福祉国家の可能性』 桜井書店2001年。</li> <li>・埋橋孝文、『社会福祉の国家比較』 放送団学教育振興会 2015。</li> </ul>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 各国の社会福祉類型・政策について理解している。 異なる社会福祉国家を妥当性のある方法で比較できる。 自国の福祉の各分野について理解できる。</p> <p>○評定の方法 レポート 50% 発表と積極的参加 50%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>○ 大学院学則を遵守すること。 ○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するため努力すること。 ○ 学際的・国際的感覚を涵養すること。 ○ レポートの期限を厳守すること。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション、福祉における国際化の動向と海外福祉研究の意味、発表割り振り		
【学習の目標】	海外福祉研究の目的、意義、方法を理解する。		
【学習の内容】	日本と海外の固有の福祉と国際化が進むことによって共通的な福祉の現れや動きに着目する。		
【キーワード】	海外福祉、福祉の独特性と共通性、独自性と多元性		
【学習の課題】	海外福祉研究の歴史的・理論的背景、比較の視点として福祉に関する国際的視点と相対的視点を持つ。		
【参考文献】	阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。		
【学習する上での留意点】	世界国々の福祉政策や援助方法に対する独自性と多元性の両面を理解する。		
2. テーマ	福祉国家レジーム		
【学習の目標】	福祉国家レジームについて理解する。		
【学習の内容】	様々な福祉国家レジームと類型論等について探求する。		
【キーワード】	福祉資本主義、社会民主主義モデル、保守主義的、コーポラティズム型、自由主義福祉国家レジーム		
【学習の課題】	様々な福祉国家レジーム、類型とその考え方、福祉サービスのあり方等、について考える。		
【参考文献】	イエスター・エスピニン=アンデルセン；岡沢憲美・宮本太郎監訳『福祉資本主義の三つの世界-比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房、2001年。		
【学習する上での留意点】	それぞれの特性、相違点について理解する。		
3～4. テーマ	イギリスの社会福祉制度・政策		
【学習の目標】	イギリスにおける社会福祉の変遷とコミュニティケアと社会福祉制度・政策を理解する。		
【学習の内容】	コミュニケーションケアと保健医療改革、イギリスのNHS改革等、について発表・講義する。		
【キーワード】	コミュニケーションケア、保健医療改革、国民保健サービス		
【学習の課題】	地域・地方自治体の責任・機能の変化、サービスレベルの変化、供給の多元化、利用者の権利擁護などの世界的動きや変化過程を探求する。		
【参考文献】	仲村優一、阿部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉イギリス④』旬報社。		
【学習する上での留意点】	今のイギリスのNHSも日本の医療保健政策も短時間で急に出来上がったものでなく、長い時間と多くの努力をかけての進歩であるが、また時代の要求に応じて改革を重ねていかなければならないということを理解する。		

5～6. テーマ	アメリカの社会福祉制度・政策
【学習の目標】	アメリカと日本の地域社会を基盤とする福祉制度・政策を比較・分析する。
【学習の内容】	アメリカの社会福祉制度の変遷と社会保障法、ソーシャルワークの発展について発表・講義する。
【キーワード】	ニューディール政策、自由主義、新自由主義
【学習の課題】	アメリカの社会福祉制度・政策のシステムとその内容について探求する。
【参考文献】	仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アメリカ⑨』旬報社。
【学習する上での留意点】	アメリカにおける社会福祉の流れについて理解し、自由主義社会における社会福祉の形の利点と欠点について考察する。
7～8. テーマ	ドイツの社会福祉制度・政策
【学習の目標】	ドイツの社会福祉制度・政策の変遷と介護保険・年金制度等、について理解する。
【学習の内容】	医療保障、年金保険、介護保険、課題等、について発表・講義する。
【キーワード】	ビスマルクモデル、東西ドイツ統合、社会保険
【学習の課題】	ドイツの社会福祉制度・政策のシステムとその内容について探求する。
【参考文献】	仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉ドイツ』旬報社。
【学習する上での留意点】	日本の介護保険制度はドイツの介護保険制度を参考にして創設されたが、わが国の制度との相違点についても分析する。
9～10. テーマ	スウェーデンの社会福祉制度・政策
【学習の目標】	スウェーデンの社会福祉制度・政策の背景と変遷、内容について理解する。
【学習の内容】	社会民主主義・普遍主義モデルとしてのスウェーデンの社会福祉全般について発表・講義する。
【キーワード】	ユニバーサルモデル、社会サービス法、LSS 法
【学習の課題】	普遍主義としての社会福祉政策を行ってているスウェーデンの背景と実際のサービスの内容について理解する。
【参考文献】	仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉スウェーデン』旬報社。
【学習する上での留意点】	スウェーデン独自の地域生活を支える仕組みと脱施設化・施設解体の考え方についての背景を考える。
11～12. テーマ	東アジア・東南アジア・極東アジアの社会福祉制度・政策①
【学習の目標】	東アジア・東南アジア・極東アジアの社会福祉制度・政策の背景と変遷、内容について理解する。
【学習の内容】	東アジア・東南アジア・極東アジア各国の社会福祉について比較・分析し、発表・講義する。
【キーワード】	東アジア、東南アジアモデル、極東アジアモデル
【学習の課題】	東アジア・東南アジア・極東アジア各国の社会福祉の基礎概念や、理念について分析するとともに最近の課題について学ぶ。
【参考文献】	仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。
【学習する上での留意点】	東アジア・東南アジア・極東アジア各国の社会福祉の事情を学び各国ではどのようなアプローチが可能であるかを発展的に考える。
13. テーマ	東アジア・東南アジア・極東アジアの社会福祉制度・政策②
【学習の目標】	東アジア・東南アジア・極東アジアの社会福祉制度・政策の背景と変遷、内容について理解する。
【学習の内容】	東アジア・東南アジア・極東アジア各国の社会福祉について比較・分析し、発表・講義する。
【キーワード】	東アジア、東南アジアモデル・極東アジア
【学習の課題】	東アジア・東南アジア・極東アジア各国の社会福祉の基礎概念。理念について分析するとともに最近の課題について学ぶ。
【参考文献】	仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 中島恒雄『21世紀の高齢者福祉』ミネルヴァ書房、2002年。
【学習する上での留意点】	社会福祉の補完性と家族の関係について考える。
14. テーマ	スペインの社会福祉制度・政策
【学習の目標】	スペインの社会福祉制度・政策について理解する。
【学習の内容】	伝統的な家族形態を中心としたスペインの社会福祉制度とその考え方について発表・講義する。
【キーワード】	家族福祉、カトリック教会、補完性
【学習の課題】	中南米諸国においても影響を与えたスペインとの社会福祉の理念とその現状について調べる。
【参考文献】	仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉スペイン』旬報社。
【学習する上での留意点】	伝統的な家族福祉やカトリック教会の影響しかつ変容する社会に対し、イタリアの社会福祉の現状について理解する。
15. テーマ	国際機関
【学習の目標】	社会福祉に關係する国際機関について理解する。
【学習の内容】	各国際機関について発表・講義する。
【キーワード】	WHO, ILO, ユニセフ等
【学習の課題】	現代の国際機関の内容と現状、役割、あり方について検証する。
【参考文献】	仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社。
【学習する上での留意点】	国際機関の役割、取り組み等について調べる。